

エクスターでのEdzard Arnst教授へのインタビュー₁

(RAH英国本校スタッフがH:MC21英文を和訳)

Ursula Kraus-Harper RSHomにより翻訳

H:MC21 はDeutscher Zentralverein homöopathischer Ärzte [German National Association of Homeopathic Physicians ドイツ国立ホメオパシー医団体]

(www.welt-der-homoeopathie.de)にこのインタビュー及び関連記事の出版許可を与えてくれた事に感謝を述べたい。

Ernst 教授は欧州における補完療法の分野における研究者の中で最も有名な科学者の一人として見られている。*Handelsblatt* や*Stern*のようなドイツの新聞・雑誌は彼の記事をこのんで引用している。

その理由は彼の見解は明確でいて、それらをはっきりと表現する事をためらわないからかもしれない：「私は世界の補完療法の研究と科学的基準でのホメオパシーの試験を行う職務を持っているだけである。残念ながら、これまでのところ私は殆どホメオパシーがプラセボ以上の効果がある事を示唆する情報は得ていない」 (*Welt am Sonntag*, 2005年4月)

この一文は殆どすべてのErnst教授のインタビューで出てくる。

最近では彼は主に(*Gesund ohne Pillen*, Hanser Verlag, 2009 [英語版では*Trick or Treatment* (邦題「代替医療のトリック」)として出版])または人気の専門的科学書籍(*Die andere Medizin* [The other medicines], Stiftung Warentest, 2005)の著者として名を馳せている。

しかし彼の意見はまた最近、公布された英国議会科学技術分科委員会のレポートの為に不可欠なものとなっている。

このレポートはホメオパシー治療をNHSによって行われるべきでない事、そしてホメオパシーレメディィーは医薬としての認可されるべきでないということを要求している。

メディアでは大抵、Edzard Ernstは補完医療研究の権威であるという印象を与えている。

Edzard Ernst神話はまた彼がホメオパシー医師という立場でありながらホメオパシーを否定しているという印象によって増幅されている。

*Trick or Treatment?*では共著者として責任を共有するSinghがこう述べている：

「我々の一人、Edzard Ernstは長年にわたり、いくつかの代替療法を含む、医学に従事したインサイダーである」。このイメージは繰り返し使われた。*Welt*

am Sonntagとの (2005年4月10日)のインタビューでErnstは「・・・医師として、そして経験を積んだホメオパスとして、これまで私は幾度にわたりホメオパシー的治療を行ってきた、そしてその結果は様々である」と述べている。そして技術調査での (2008年7月23日) インタビューで彼は「臨床医として私はホメオパシーにとっても感銘を受けていた」と述べている。

The Gesellschaft zur wissenschaftlichen Untersuchung der Paramedizin (GWUP) [Society for the Scientific Research of Paramedicine 準医学科学研究団体] 及び科学ブログの著者たちはこれについて以下のように考えている：「・・・ Ernst教授は彼自身ホメオパシーを学び、その他の方法についても補完療法の主席に任命されるまでの長い間、学び、これらを医学の惨酷な方法に変わって導入してきた」と。

このようなErnstの転向がメディアの興味を引く部分である。

確信に満ちた内情を知る人物が、その見解を変えたとなればそれは信頼できるに違いないと。私達はこのような話に興味をそそられるだろう。

ホメオパシー治療の経験を持つ模範的な医師が、ホメオパシーに失望し、見解を変えるというのは稀である。従って我々はEdzard Ernst教授にインタビューを行い；彼はそれに同意した。

インタビュー

質問：ホメオパシー治療は従来の治療からは異なる法則に基づいている。

これは明らか異に薬剤の効果を定義するものではなく、治療の効果を定義するためのものである。あなたは之に異論がありますか？あなたはこれが異なる研究または調査のコンセプトへ導くと思えますか？

↑ *Homöopathische Nachrichten* [Homeopathic News], April 2010, pp. 1-3より、

<http://www.dzvhae.com/portal/pics/abschnitte/300410102802_hn168april10.pdf?PHPSESSID=273eb20b3c19d743c6c106bbd56fd1dc>にて入手可能

エクセスターでのEdzard Ernst教授へのインタビュー – p. 2

Ernst：臨床研究においては通常「明確に定義された薬の効果」についてではなく、臨床的治療効果についての試験を行います。

これは必ずしも異なる研究または調査のコンセプトとなるわけではありません。

質問：Heiner FreiのADHDの治療についての研究コンセプトについてはどのように思えますか？

記者による脚注： Dr Heiner Freiはスイスのホメオパス；彼の研究は以下でダウンロードできる

<http://www.heinerfrei.ch/downloads/Downloads%20Publikationen/Improvements_engl.pdf>

Ernst：一つの興味深い調査である。結果の中立的な再調査を行うと良いだろう。

質問:異なるレメディーを比較し、レメディー特有の結果を得た、Möllinger et al.による二重盲検法試験についてのあなたの見解は?この研究がプラセボ対照群との比較において、はっきりとした違いをもたらした理由はありますか?

Ernst :ホメオパシーのレメディー試験はレメディーの患者への臨床的効果を検査する臨床研究ではない。従ってホメオパシーがプラセボよりも病気の人を助ける事ができるかどうかという質問へ回答する事には意味がない。

質問:ある治療法が下痢は有効であるが、筋肉痛には効果がない場合、その治療法は何れにしても効果的でないと言えますか?これは多重指標を伴うメタ分析の問題となりませんか?

多重指標をもつメタ分析は確かに限界がある。

これらは一つの特定の事についてというよりは原理の問題について試験するものである。

質問:メタ分析の試験対象患者基準の操作への感受性をどのように判断しますか?

Ernst :きちんとしたプロトコルに基づくメタ分析は多重比較(事後比較?)に操作されないだろう。

質問:認知医学(CBM:cognition-based medicine)におけるKienleの研究を知っていますか?これは試験評価へ質の高い方法の導入を試みるものですよ?これについての見解は?

Ernst :私は認知医学が医学の領域に入ったとは考えられない。私は補完療法において、それらの一般的に受け入れられている基準に沿うべきであると考えている。

質問:個別化された方法の調査を行ううえで、二重盲検法に根本的な問題があると思いますか?

Ernst :思わない

質問:あなたの指揮のもとに行われた研究はどのようなものがありますか?

Ernst :我々は主に補完療法的方法の有効性と安全性について調査している。

我々は約30の臨床研究と100以上の体系的調査を出版している

(<http://sites.pcmd.ac.uk/compmed/research.html>)。

質問:あなたは根本的に補完療法の研究を行う者たちは少なくとも一つの療法を修めた、または訓練を受けたものであるべきという意見ですか?

Ernst :そうです。研究チームのうちの少なくとも一人は関連知識を持っているべきです。

エクセスターでのEdzard Ernst教授へのインタビュー— p. 3

質問:あなたは「ホメオパシー」の医学的称号をお持ちですか?

記者注釈:「ホメオパシー」の医学的称号を得るためにはドイツ医学委員会Landesärztekammer

の関連地方支局で試験を受け合格する必要がある。

Ernst : 私はその前提条件を満たしているが、その称号を志願しなかった。

質問 : ではあなたは「ホメオパシー」の医学的称号を得ていないが、しかしホメオパシーの医学的教育課程を取ったという事で間違いはないですね？もしそうでしたらどの課程を受けたのですか？

Ernst : 私はどの課程も修了していない。

質問 : それ以外の補完療法を何か学ばれましたか？

Ernst : ホメオパシー以外には、フィットセラピー、マッサージ、マニュアルメディスンそして自律訓練法を学びました。

質問 : どこで、どれほどの範囲でホメオパシーの経験を積むことができたのですか？

Ernst : 国家試験の後、Munich Krankenhaus für

Naturheilweisen [Hospital for Natural Healing Methods 自然治癒療法の病院]のDr Zimmermannの下で働きました。その後、物理療法及びリハビリテーションの専門医としての私のトレーニングの間、私はいくつかの補完療法にふれる機会がありました。過去17年にわたり、私は異なる専門分野を持つ約15名の研究者のチームを率いてきました。

質問 : あなたが自然治癒療法病院で半年間働いていたというのは事実ですか？

Ernst : どれぐらいの期間そこで働いていたかはっきりとは覚えていません、とても昔の事なので！

エクセスターでのEdzard Ernst教授へのインタビュー – p. 4

DZVhÄの主席、Curt Köstersによるコメント

Ernstはホメオパシーのトレーニングを受けましたか？

彼の繰り返された主張とは逆に、Edzard Ernstは資格を持ったホメオパスではありません、また「ホメオパシー」の医学的称号を得る前提条件さえ満たしていません。DZVhÄとのインタビューにおいて彼がどんなホメオパシーの教育課程をもとっていない事が明らかになった、従って「ホメオパシー」の医学的称号を得る必要条件を満たしていないという事になる。

それでは彼の補完療法の分野における医学的実践についてはどうだろうか？

国家試験の後、Ernstはたった半年間しか、自然治癒療法のMunch病院でのインターンを行っていなかった。

「・・・その後、私は研究室へ移り、研究者となった、そして私の見解をはっきりと変えた」と彼は2009年3月、Sternにそう話している。Ernstは彼が最低限の治療経験しか持っていない事については殆ど述べていなかった。DZVhÄ

のインタビューの時、彼は彼の医療活動期間を思いだせなかった。
私達は彼の「フィットセラピー、マッサージ、マニュアルメディスンそして自律
訓練法」のトレーニングを仮定する事しかできない。

彼の研究能力については？

我々はインタビューでErnst教授より受けた最初の返答について困惑させられ
た：「私はただ質問を読んだだけである。もしそのような特定の質問に対する
回答が欲しいなら、それを言及している出版物の名前を記してくれ」。
この一流の研究者は、自分自身の専門領域において最近出版された基本的な研
究についての知識が明らかでない。
我々は彼に快くその出典を教えた、それらの記事の中には、他にもないEdzard
Ernst教授がメンバーである科学顧問委員会のものも含まれていた。

明らかに複雑な質問への彼の回答は幾分簡素なものであった。ホメオパシーレ
メディーの試験が臨床的有効性についての質問の答えにはならない事はもちろ
ん正しい。しかしそのような一つの研究が十分に、ホメオパシーレメディーの
効果はプラセボの効果と異なるかどうかについて確認ができるだろうか。

Shang et al.出版の良く知られている批判も含む、このメタ分析についての質問
への彼の回答はやはり、どちらかというハッキリとしないものだった。
科学者としてのErnst教授のキャリアは彼が1993年に就いた、エクセスター
大学における補完療法における研究の主任という彼の地位に密接に関係してい
る。その主任という地位においては企業からの150万ポンドの出資を得ることが
できる。この研究所は2011年春、この大学の経済的支援が終わる時に閉鎖され
る。彼の補完療法における一流の研究者としてのパフォーマンスは恐らくこの
背景において見られている。

欧州においてEdzard Ernstは補完療法の権威者であるか？

多くの大学は補完代替療法（CAM complementary and alternative medicine）
についての研究を行う機関を持っている。他の研究者たちはより洗練された意
見を持っている。

MunichのTU[Technical University 技術大学]のZentrum für Naturheilkundliche

Forschung [Centre for Research in Natural Healing 自己治癒研究センター]の Klaus Linde はこう記している：「臨床研究者たちの間での議論はプラセボ対照研究からの肯定的な証拠があるかどうかではなく、自然科学的観点において妥当性の低いとみられる、この証拠はホメオパシーの効果を証明するのに十分であるかどうかについての議論である。」

Gesundheit ohne Pillen (in *Frankfurter Allgemeine Zeitung*, 2009年2月23日)

Robert Bosch の医学史の研究所長、Robert Juetten 教授の調査において。

エクセスターでの Edzard Ernst 教授へのインタビュー – p. 5

シュツットガルトの法人はある点についての批評を行っている：補完医療の領域における一流の研究者たちによって示されたこの二人の「専門家」による見解は方法的、実質的反論に見られる無学さは顕著である。

対立する見解については言及されていない。

この著者たちはまた2006年のスイスの補完療法評価プログラムにおけるホメオパシーについての詳細な科学技術評価レポートを無視している。

このレポートはホメオパシーの病状発現及び臨床的効果の明らかな証明があるという結論（証明程度 I と II）に至っている、そして絶対的に、特に従来の医療との比較においてホメオパシーは費用対効果及び介入の安全性を示している。